

W135a **MAXI が検出した 2016 年度前半の突発現象と MAXI J0911-655 と MAXI J0758-456 の発見とその正体**

根来 均, 中島基樹, 田中一輝, 増満隆洋 (日本大学), 芹野素子, 三原建弘, 松岡 勝 (理研), 中平聡志 (JAXA), 河合 誠之 (東工大) ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI が 2016 年度前半に検出した突発現象等について報告する。前回の春季天文学会以降、6 月 13 日までに突発天体発見システムが検出した X 線領域での増光現象のうち 7 件と 1 件のガンマ線バーストらしき現象をそれぞれ、The Astronomer's Telegram (ATel) と Gamma-ray Coordinates Network (GCN) に速報した。MAXI J0911-655/Swift J0911.9-6452 は、2 月 19 日に突発天体発見システムにより 1 日の検出限界程度の明るさ (10–15 mCrab) で検出され、Swift の BAT 検出器でも 2 月 29 日に検出された。その後、その存在が確からしいことが両観測から確認され、3 月 26 日に MAXI, Swift チーム合同で ATel に報告した (ATel #8872)。そして、Swift XRT (#8884), Chandra (#8971) の追観測により球状星団 NGC 2808 内の天体であることがわかった。また、4 月 24 日には、ソフトなスペクトルを持った突発天体 MAXI J0758-456 (#8983, #8993) が 1 スキャンのみで検出された。Swift XRT の追観測では、MAXI の誤差領域の端で激変星 1RXS J080114.6-462324 がこれまでの観測より 2-5 倍程明るい状態で観測された (#8988)。これら以外に、Be パルサー A0535+26 (#8977), GX 304-1 (#9064)、中性子星連星系 XTE J1709-267 (#9108) のアウトバースト、RS CVn 型星 VY Ari (#9044), HR 5110 (#9144) のフレアを ATel に報告している。講演では、これら 2 つの突発天体の発見と追観測により検出された (既知) 天体との関係を中心に、これらの突発現象について報告する。